

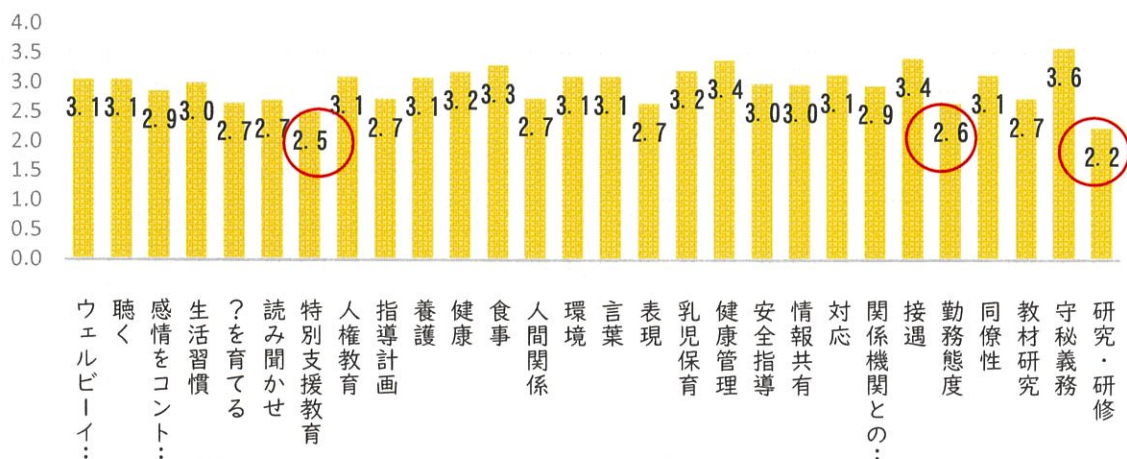
令和7年度の自己評価

令和7年12月27日
認定こども園国分西

評価 : 1 努力が必要。 2 もう少し。 3 概ねできている。 4 十分にできている。

No.	観点	項目	評価
1	子どもの心を抱きしめる	ウェルビーイング	3.1
2		聴く	3.1
3		感情をコントロールする力・言葉で伝える力	2.9
4		生活習慣	3.0
5		？を育てる	2.7
6		読み聞かせ	2.7
7		特別支援教育	2.5
8		人権教育	3.1
9	指導計画	指導計画	2.7
10	発達援助(保育の方法・内容)	養護	3.1
11		健康	3.2
12		食事	3.3
13		人間関係	2.7
14		環境	3.1
15		言葉	3.1
16		表現	2.7
17		乳児保育	3.2
18	健康・安全	健康管理	3.4
19		安全指導	3.0
20	保護者支援	情報共有	3.0
21		対応	3.1
22	関係機関との連携	関係機関との連携	2.9
23	資質向上	接遇	3.4
24		勤務態度	2.6
25		同僚性	3.1
26		教材研究	2.7
27		守秘義務	3.6
28		研究・研修	2.2

R7自己評価



IX 取組の成果・課題と今後への志向

1 取組の成果

- (1) 今年は応答的保育を目標として日々取り組んできました。子どもたちとの会話の中でその子の気持ち・体調・様子などに注意するように心がけてきました。ただ、気付きなどをメモしていこうと思いましたが、毎日の忙しさの中でなかなか実践することができませんでした。来年度は記録の仕方などをもう少し考えて取り組んでいこうと思います。
- (2) うまくいかないことも多かったが、日々の保育の中で子どもたちの発達や様子を見守り、その都度対応の仕方を話し合って、実践することができた。今後もいろんな角度から対応策を考え、保育者間で共有し、子どもたちに寄り添っていききたい。
- (3) 心身の発達が目まぐるしかった。食事やトレイトレーニングをとおして生活習慣を身に付け、自立できるよう関わることに努めてきた。自我が芽生えてきたように思う。
- (4) たくさんの絵本を購入していただいたので子どもの年齢に合わせた興味ある本を選択して読み聞かせをすることができた。子どもたちは目をきらきらさせて見ていた。遊びに集中できない子どもも絵本を見せると静かに座って見ていた。
- (5) 指先を使った遊びや子どもの興味・関心に合わせた感覚おもちゃなどを作成し、活用しながら発達を支援する遊びを楽しむことができた。
- (6) 子どもでも一人の個人として接してきました。成長を促す上で難しい問題点があっても時間をかけて取り組み、何より継続することが大切だと改めて思いました。
- (7) いろいろなクラスに入って子どもたちと関わった。一日の流れを把握し、担任・副担任の先生方がスムーズに保育できるようなサポートを心掛けた。助かったと言ってもらえることがうれしかった。
- (8) 段階を踏んで一つずつできることが増えるようやり方を伝える工夫をしながら成長の手助けをしてきた。視覚的な伝え方をもっと増やしてあげられるとよかったなと反省している。

2 課題

- (1) 子どもへの言葉掛けに気を付けているが、時間の関係や同じことの繰り返しで否定的になってしまうことがあるので、気を付けて意識して言葉掛けをしたい。
- (2) 会議資料の提出期限が守れないことが多かった。期限厳守に努めたい。
- (3) 園児一人一人へ十分に目向け、一か月を目安として一人一人と言葉を交わすなどが不十分であったと感じた。
- (4) 行事準備等の進捗状況において指導が甘かった。
- (5) 問題が起きたとき（担任と保護者）、対応が後手になってしまった。
- (6) パズルや積木など知育玩具と使って学ぶ楽しさを味わわせたい。
- (7) 観察力や多様な子どもの姿や状況に合わせた支援のスキルをもっと高められるように努めていきたい。
- (8) 日々の保育の中で子どもの様子に気付き、理解を深める工夫をしていきたい。
- (9) 保育補助の一人として働いている自覚をもって子どもたちへの接し方を学んでいく必要がある（いい顔ばかりするのではなく、集団のルールなども考えながら楽しく一日を過ごしてもらえよう子どもたちの傍にいたいと思います。）。
- (10) 特別支援教育について学び、スキルを向上させたい。
- (11) 振り返ることで自分の保育に対する思い・取組に対しての反省が分かる。時間に追われないように気を付けたい。
- (12) 計画を立てるが、立てて安心せず、書類等も前もって取り組む。当たり前のことを当たり前にすることが不十分だったため、次年度は自分を甘やかさずに取り組む。
- (13) 大人が敷いたレールからはみ出す子が駄目な子でなく、なぜそうなったのかを考えられる大人でありたいですが、それがわがままなのかの判断が難しいところです。

3 今後への志向

- (1) 異年齢児保育をやってみたい。
- (2) 行事や制作等に追われて子どもの育ちに大切なことが実践できていないと思う。子どもが主体的に遊べる保育環境を整え、実践できたらいいなと思います。
- (3) 秋祭りを充実させたい。

- (4) 応答的保育について取り組んでいきたいと思います。また、自分なりに勉強していきたいです。
- (5) 音楽やリズム遊びをとおして子どもたちの自己表現力を伸ばしていけたらと思う。気になる子どもへの関りなどを学んでいきたい。
- (6) 15名定員の保育者4名体制にしてもらい、ずいぶん余裕はあったが、嘔みつきをする子どもが数人いると、目が離せくなり、他の子どもとじっくり遊ぶことができなかった。全員と分け隔てなく接することがいいなと思う。
- (7) 園だけでなく、自宅でも受けられるオンライン研修なども活用しながら子どもの発達理解やさまざまな保育に関する学びを深めていきたい。
- (8) 子ども一人一人に目を向け、安心できる関りを大切にしていきたいです。
- (9) はッピー教室のお手伝いをしてみたい。
- (10) 特別支援教育について学びたい。
- (11) スキルアップのために研修を受講したい。
- (12) 未満児のリトミック遊び
- (13) 不審者対応について
- (14) もう少し書物を読んで知識を広げていきたいです。
- (15) より計画的に自分に余裕をもって仕事と向き合いたいと思う。